

# 東日本大震災と原発事故に見る 福島県の市民協働と防災の特徴と事例

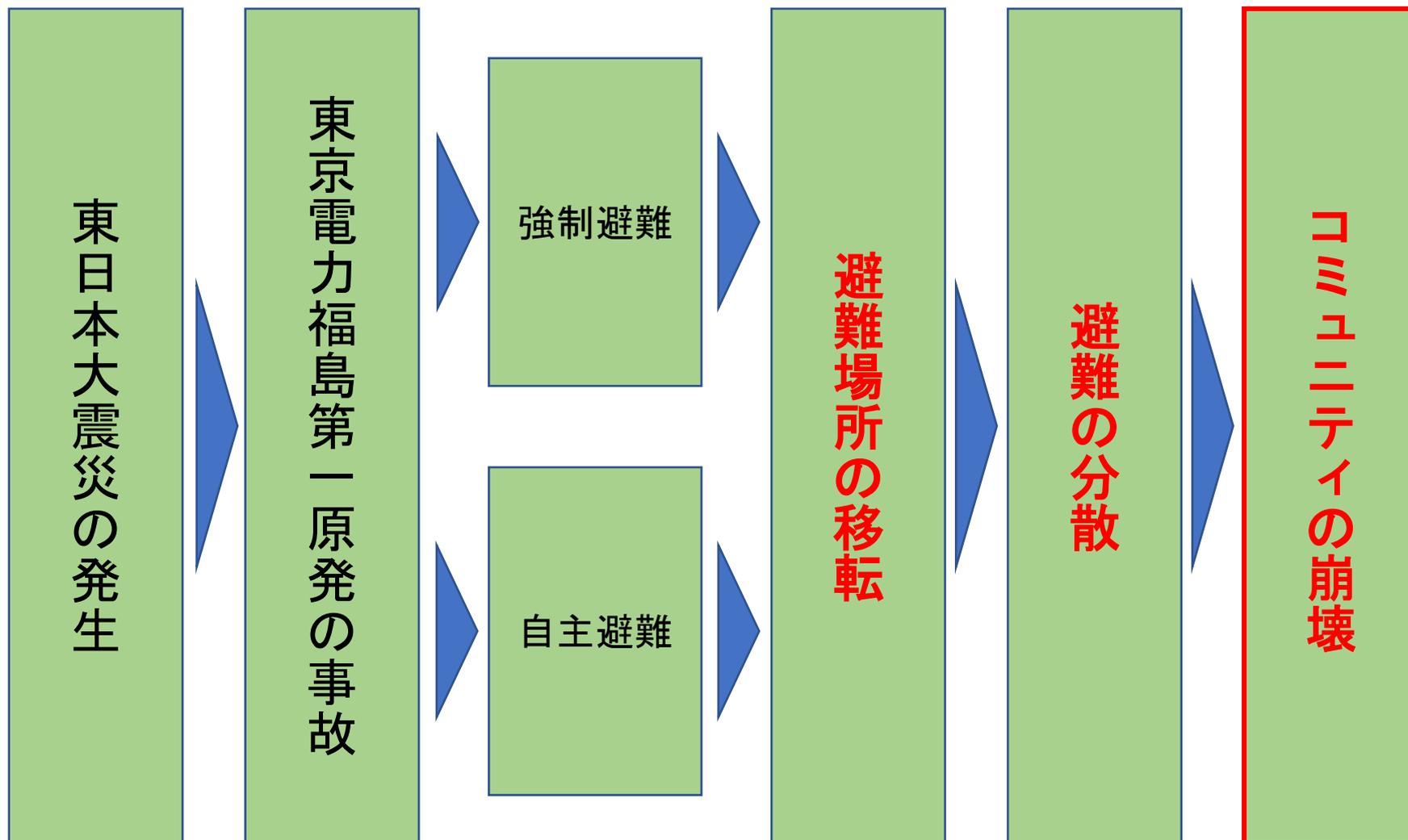


平成29年11月26日(日)



一般社団法人ふくしま連携復興センター  
遠山 賢一郎

# 福島県の被災の特徴 - 原発事故による避難の分散



# 福島県の被災の特徴 - コミュニティの崩壊による影響

コミュニティの崩壊



避難者の孤立

	直接死 2016年2月10日現在、警察庁まとめ	震災関連死 2017年3月31日現在、復興庁まとめ
岩手県	4, 673名	463名
宮城県	9, 541名	926名
福島県	1, 613名	2, 147名

福島の大災害の特徴は原発事故の影響による**二次的な被災**の突出

「防災」とは**コミュニティの維持による生活の安定**を日常的に備えておくこと

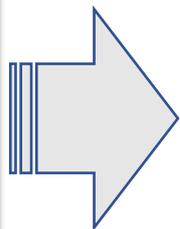
## 市民協働による「防災」の事例

<p>事例①</p>	<p>NPO法人 まちづくりNPO 新町なみえ</p>	<p>浪江町</p>	<p>浪江町から避難した住民により、震災後設立。避難先の二本松市に拠点を置き、避難者のコミュニティの維持・再生や借上げ自治会の活動支援、避難指示解除後の生活再建を考えるシンポジウムの開催などを行っている。</p>
<p>事例②</p>	<p>おだか ぷらっとほーむ</p>	<p>南相馬市 小高区</p>	<p>避難指示解除前の南相馬市小高区に、地元住民と支援者により設立。地元住民や市外からの来訪者の交流拠点、情報発信などの機能を発揮する。更に避難指示解除後のまちづくりを考えるワークショップやイベントなども行う。</p>

# 事例① まちづくりNPO新町なみえが果たした役割 - 結成と外部支援者

東日本大震災  
原発事故

JR浪江駅前  
新町商店会



NPO法人  
まちづくりNPO新町なみえ

「絆」の再生を目指し結成

外部支援

大学

- ・ 早稲田大学
- ・ 福島大学
- ・ 岩手県立大学

NPO

- ・ ジャパンプラットフォーム
- ・ 日本NPOセンター
- ・ まちづくり二本松
- ・ 鬼生田開発プロジェクト
- ・ ふくしま連復

行政・公共団体

- ・ 浪江町
- ・ 浪江町社協
- ・ 浪江町商工会

## 事例① まちづくりNPO新町なみえが果たした役割 - 結成と外部支援者

### 「絆」を取り戻すために

#### 避難先での盆踊りの開催

2011年8月11日、避難先の二本松市で開催。3,000名を超える町民が参加した。分散して避難していた町民が久しぶりに集い、「絆」の再生に大きく寄与した。



#### 移動支援「新ぐるりんこ」事業の展開

仮設住宅や復興公営住宅間、また医療機関や商業施設などを結ぶオンデマンドによる移動支援システムを、早稲田大学と共に構築し、実施。避難者同士の交流を図るとともに、生活支援にも寄与している。当初は助成金を活用していたが、今年度は浪江町の委託事業として展開している。



#### 自治会の支援

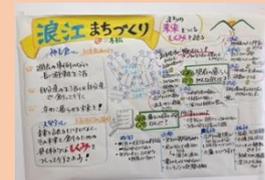
避難先の仮設住宅などで結成された自治会の活動支援。イベントの実施や自治会長に参加を呼び掛けて、生活再建やコミュニティ形成について意見交換を行うなどの活動を実施している。中でも交流の機会が少ない借上げ住宅の自治会のサポートを熱心に行っている。

## 事例① まちづくりNPO新町なみえが果たした役割

### 生活再建を成し遂げるために

#### 浪江まちづくり未来創造シンポジウムの実施

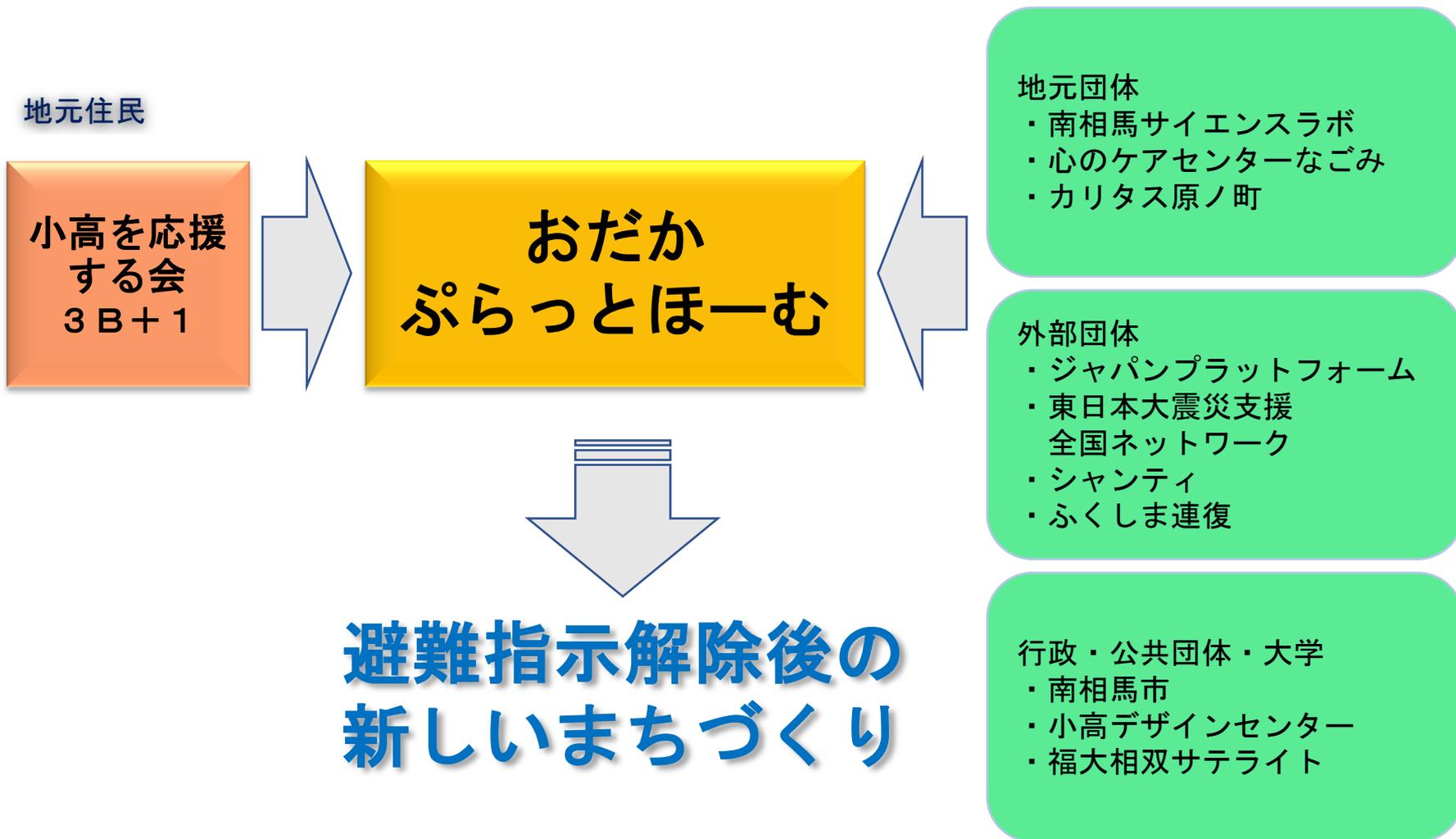
浪江町の避難指示が解除になってからも、町外で避難生活を続ける町民は数多く存在するが、避難を継続しながらも生きがいを持ち安定した日常を送るためのワークショップやシンポジウムを精力的に実施。今年度も町民を交えたワークショップを繰り返し、その発表の場として5月に二本松市で「浪江まちづくり未来創造シンポジウム」を開催。



#### 町外コミュニティの整備

浪江町は今年3月に避難指示を解除したが、帰還者はまだ少なく、町外で避難生活を継続する町民の生活再建についても引き続き重点的に支援していく必要がある。新町なみえは、浪江町からの避難者が数多く生活する二本松市の復興公営住宅「石倉団地」の近隣に農園を確保し、避難者の生きがいづくりに寄与するとともに安定した日常を送るための機会を創出している。

## 事例② おだかぶらっとほ一むが果たした役割 - 住民と外部支援者による結成



## 事例② おだかぷらっとほ一むが果たした役割

### 住民や来訪者の交流拠点に

地域住民の拠り所  
「おだかぷらっとほ一む」の設置、運営

避難指示解除前から小高の復興と新しいまちづくりを目指し活動していた住民グループ「小高を応援する会 3B+1」と、様々な外部支援者が協力して、2015年10月にコミュニティ形成や地域住民、市外からの来訪者との交流拠点「おだかぷらっとほ一む」を設置。避難指示解除後の街のにぎわい創出や、情報発信などに関する事業も行っている。また、毎月1回定例会議を開催し、拠点の運営について、また地域課題の共有や解決策についての意見交換なども行っている。



## 事例② おだかぶらっとほ一むが果たした役割

### 町のにぎわいを取り戻すために

小高大蛇伝説まちあるき  
イベントの南相馬市との  
共催による実施

おだかぶらっとほ一むのメンバーが中心  
になって、避難指示解除後の街のにぎわい  
創出と市外からの来訪者との交流を目指して  
企画した、小高の史跡を廻りながらお宝を  
ゲットする、まちあるきイベントを開催。  
開催に当たっては、南相馬市や市が設置した  
街づくり組織「小高デザインセンター」を  
はじめ、様々な人たちを巻き込み、2016年  
11月26日に実施した。  
さらに今年度は南相馬市の事業として行われ  
このイベントの定着が見込まれるようになった。



## 最後に - 2事例から学んだ市民協働と防災・減災

### まちづくりNPO新町なみえ

震災前からの地縁組織が中心になり発足

### おだかぶらっとほーむ

避難指示解除前に活発に活動していた地域住民が中心になり、拠点づくりを実現

### コミュニティの再構築や活性化に貢献

- ・人が集うところに拠り所が生まれ、拡大する
- ・拠り所には外部からの支援も集まりやすい

- ・人が集うため、リーダーやシンボルなどが日常的に育まれるのが理想的
- ・そのための仕組みづくり：日常的な地域住民の交流の機会創出や地域活動が求められる